

成美地区で新たな活動がはじまったと聞き、取材に行ってきました



↑生活支援コーディネーター

生活支援
コーディネーター通信
※生活支援コーディネーターは
地域のみなさんとともに地域
での支え合いの仕組みづくり
に取り組んでいます。

Vol.26 令和4年
5月30日

成美地区

コロナ禍で生まれた新たな活動「励ましの手紙」

活動内容は？

民生委員児童委員さんの協力を得て、地区に住む一人暮らし高齢者の方々に「子ども達を励ます手紙を書いていただけませんか」と提案すると、たくさんの賛同をいただき約 500 枚の手紙が集まりました。その後、集まった手紙は地区社協さんを通じて学校に届けられました。学校では、まず児童会の役員に手紙を見てもらうと、児童の方から「全校児童(約 450 人)に見てもらおう」「自分達にも何かできないかな？」という児童達の思いから、今度は児童が地区内の高齢者の方々に手紙を書き、成美地区社協を通じて、一人暮らし高齢者の方々のもとに届けられました。



学校に届いた手紙を見やすく模造紙に貼って各学年で掲示した様子

孫にあげるような気持ちで手紙を書きました。小学校生活を振り返った時、みんなでワイワイ給食を食べたり、おもいっきり遊んだり、行事に参加したことがすごく楽しかったと思ひます。今の子は当たり前でできていたことが、できなくてかわいそうだなと思っています。児童達も大変な中、手紙をもらって自分達も励まされ、手紙をもらった時は涙がでてきました。
頂いた手紙は公民館等に飾り地域の方にも見てもらっています。これからもこの活動を続けていきたいです。



←左:森本民生児童委員
右:地区社協 向出副会長

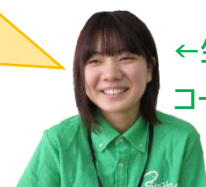
学校に届いた手紙を見て、「自分達にできる事を考えたり、地域の方が自分達のことを思っていることを知る機会になっている」と校長先生は話された。



↑成美小学校
古谷校長

新型コロナウイルスが感染拡大する前は木工教室や凧作り等学校行事に地域の方を招いて交流する機会がたくさんありましたが、近年は従来のような活動が難しい状態であり、児童には学校生活の中で我慢を強いることが多くなっています。その中で児童達のアイデアでどんどん広がりを見せ、児童達も楽しみにしています。
今後の展開が楽しみな活動の1つです。

コロナ禍で多くの交流が中止せざるを得ない中、子どもと高齢者の交流は世代を超えて互いに見守るという意識ができたのではないかと感じます。この活動は、それぞれの関係性があってこそ成り立っており、地域にすでにある資源を使って地域を盛り上げる活動に学ぶことができました。



←生活支援
コーディネーター